

FASF 第 11 回基準諮問会議を開催

2010年11月11日、財務会計基準機構（FASF）において基準諮問会議（議長 西村東海ゴム工業（株）代表取締役社長）を開催し、4つのテーマについて審議が行われました。審議の様子は以下のとおりです。

(1) 企業会計基準委員会（ASBJ）の最近の活動状況について

都 ASBJ 常勤委員より、プロジェクト計画表の更新（本誌第 31 号 208 ページ参照）及び国際会計基準審議会（IASB）に対する意見発信等について報告が行われました。プロジェクト計画表の更新については、2010年6月にIASBと米国財務会計基準審議会（FASB）から「会計基準のコンバージェンス及び1組の高品質なグローバルな会計基準のコミットメントに関する進捗報告」及びそれに基づく会計基準の開発スケジュールを示した作業計画が公表されたことや第10回基準諮問会議で検討提言のあった「四半期財務諸表に関する会計基準の改正」及び「後発事象に関する会計基準等の策定」についても当委員会での検討テーマとして取り上げ既に検討を開始していることが契機となっていること、また、IASBに対する意見発信についてはIASBとの共同会議やFASBとの定期協議などについて具体的な説明が行われました。

その後、委員より、IASBのプロジェクトの遅れについて、遅れが生じているプロジェクトについてはASBJとして積極的な意見発信を心がけるべきではないかとの意見があり、ASBJより従来からの意見発信をさらに強化するよう検討したいとの説明がありました。

また、委員より、「四半期財務諸表に関する会計基準の改正」の検討の進捗状況について質問があり、ASBJより9月から委員会における審議をスタートし、作成者、学識経験者、利用者、監査人に参考人として委員会に出席していただいて意見聴取を行い、2010年内に公開草案、2011年3月までに最終基準を公表する予定であるとの説明がありました。

(2) 国際対応の活動について

加藤 ASBJ 副委員長より、最近の ASBJ による国際対応の活動として、第 2 回アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ（AOSSG）会議を、日本が議長国として 9 月 29 日及び 30 日に東京で開催したこと（本誌第 31 号 14 ページ参照）、9 月に開催された各国基準設定主体（NSS）会議、2010 年世界会計基準設定主体（WSS）会議に参加したことなどについて説明が行われました。

その説明に関し、委員より、AOSSG で議論された結果はどのように IASB に伝えていくのかとの質問があり、ASBJ より AOSSG で議論された内容は、意見をとりまとめて AOSSG として IASB に意見発信していく形となるとの説明がありました。

(3) 平成 22 年度アンケート調査の結果報告について

平成 22 年度アンケート調査結果（本誌第 31 号 69 ページ参照）について川村委員（早稲田大学商学大学院教授）から説明が行われました。

委員から公会計に関する検討の状況について質問があり、ASBJ より未だ具体的な検討を始めているものではないとの説明が行われました。

(4) 単体財務諸表に関する検討会議の設置について

FASF 内に「単体財務諸表に関する検討会議」を設置したこと（本誌第 31 号 91 ページ参照）を報告し、議論の状況やスケジュール感について説明が行われました。